

先駆者としての技術と 挑戦スピリットで業界を牽引する

有限会社 沖縄長生薬草本社

代表取締役



しもじ せいきち
下地 清吉



(写真左奥から)
彩茶 (あやちゃ) 864円
黒人参・粒 (1,000粒) 3,780円
沖縄皇金パウダー (100g) 3,030円
沖縄皇金カプセル (250粒) 7,020円
(写真左手前) 黒人参・スライス (25g) 648円

有限会社 沖縄長生薬草本社

■住所：沖縄県南城市佐数字仲伊保116-1
■TEL：098-947-3214 FAX:098-947-3219
■URL：http://www.cho-sei.co.jp

野草・薬草との出会い

県産の野草や薬草の生産から、さまざまな健康食品の加工・販売を展開している沖縄長生薬草本社。県民にもお馴染みの「酒豪伝説」を手がける企業だ。県内健康食品市場の先駆者で、現在でも業界を牽引する同社だが、代表取締役の下地清吉氏によれば、道のりは苦難の連続だったという。

同社の業界参入へのきっかけは、下地社長の幼少期の体験からきている。「私が骨折した時に、父親が野山の野草を使って治してくれました。また、風邪をひいたときは、祖母が畑にあった野草を煎じて飲ませて、治してくれました」。

医療機関の少ない島嶼県の沖縄では、病気の予防やけがの手当てなどに、自然の野草などを活用する先人達の知恵があった。そのような環境が野草・薬草の世界へと導いたという。

起業当初は、元手も1万円程度で、縁故の少ない土地での畑探しや、生産・加工にも苦労が多かった。「ヤンバルに野草を採取しに、3～4時間の道のりを、毎日のように往復したんです」。必死に働いたものの、商品化したお茶は売れなかった。しかし、地道に物産展などを開催し、愛用者の口コミで徐々に販路が広がったという。

自然の力を生かすために

「学者や研究者は机上で研究するだけではだめ。もっと野山に出て、いい薬草がどのように生えているのか肌で感じるべき」。自然のままを生かす、それが下地社長の持論だ。

現在売り出し中の「皇金ウコン」は自然発生的

に出来る優良な個体を選別し、それを独自の培養液に漬け込み、翌年作付けをする。その作業を20年以上も繰り返し、商品化されたものだ。通常の5倍ほどにも成長する「皇金ウコン」は、抗酸化作用が非常に高いテトラヒドロクルクミンを豊富に含むという。

やまない挑戦

また、最近からは新たに中央アジア原産の「黒人参」も手がけるようになった同社。黒人参は、ヨーロッパを中心に、美容に良い野菜として注目を浴びている植物だ。昨年10月、トルコの大規模な黒人参畑を視察し、栽培方法や成分分析・加工商品などの説明を受けた下地社長。現在、沖縄発の黒人参を次なるヒット商品へと開発・改良を重ねているところだ。

このような同社の手がける製品は、国内大手メーカーや海外からの引き合いも多い。各国の薬事法も把握しており、既存で輸出できない場合には、その国にあったOEM生産も行っている。

このほか、同社では野草・薬草をふんだんに使った飲食店事業も行っている。現在、南城市本社と那覇市の産業支援センター内で、ハーブカフェも展開。無農薬野菜を中心としたビュッフェと健康ドリンクが人気だ。

「沖縄の野草は、大きな産業になる可能性がまだまだあるのです」と、さまざまな形でビジネスを展開する下地社長。先駆者としての優位性に甘んじず、新商品の開発や積極的な海外展開も見据える下地社長の挑戦は終わらない。